【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】平成20年3月6日(2008.3.6)

【公開番号】特開2006-106161(P2006-106161A)
【公開日】平成18年4月20日(2006.4.20)
【年通号数】公開・登録公報2006-016
【出願番号】特願2004-289786(P2004-289786)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　15/16　(2006.01)
Ｇ０２Ｂ　13/18　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　15/16
Ｇ０２Ｂ　13/18

【手続補正書】
【提出日】平成20年1月17日(2008.1.17)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
物体側から順に、負の屈折力である第１レンズ群と正の屈折力である第２レンズ群を有し、前記第１レンズ群は、負の第１－１レンズ成分Ｂ１１と正の第１－２レンズ成分Ｂ１２からなり、前記第２レンズ群は、正の第２－１レンズ成分Ｂ２１と負の第２－２レンズ成分Ｂ２２からなり、以下の条件を満足することを特徴とするズームレンズ。
（１）　　$-1.2 < f_W / r_{22R} < 0.9$
（２）　　$0.17 < (D_{12W} - D_{12T}) / (f_W \cdot \gamma^2) < 0.33$
ただし、r_{22R}は前記第２－２レンズ成分における最も像側のレンズ面の光軸上での曲率半径、D_{12W}、D_{12T}はそれぞれ広角端、望遠端における最も遠い物点に合焦したときの前記第１レンズ群の最も像側のレンズ面頂と第２レンズ群の最も物体側のレンズ面頂との光軸上の距離、f_Wは広角端における全系の焦点距離、γはf_T / f_W（f_Tは望遠端における全系の焦点距離）であり、前記レンズ成分とは、単体又は接合レンズあるいはレンズ表面に樹脂等を密着硬化させたような複合レンズ、つまり、媒質境界面の数がレンズ数プラス１のものである。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００８】
上記目的を達成するための本発明のズームレンズは、物体側から順に、負の屈折力である第１レンズ群と正の屈折力である第２レンズ群を有し、前記第１レンズ群は、負の第１－１レンズ成分Ｂ１１と正の第１－２レンズ成分Ｂ１２からなり、前記第２レンズ群は、正の第２－１レンズ成分Ｂ２１と負の第２－２レンズ成分Ｂ２２からなり、以下の条件を満足することを特徴とするものである。